

対馬釜山事務所だより

## 朝鮮通信使！ 挑戦？ 通信使。

今年も暑かったですね。

今夏の特徴はむしむしとした暑さ。

本当に“ムシムシハン ドウィ（恐い恐い暑さ）”でしたね。

今年のアリラン祭りは、対馬に向かう台風そして暑さにさながら挑戦するかのような朝鮮通信使行列の再現でした。

今年も韓国側から正使、副使、宮中楽演奏の釜山情報女子高校生（行列の中で黄色い衣装を覚えていますよね）、そして例年のペギンセ舞踊団に代わって釜山東亜大学のキム・ウニ「チッ」舞踊団とナムサンノリマダン（サムルノリチーム）が舞台公演と朝鮮通信使行列再現に参加しました。

「チッ」舞踊団は初めての対馬來訪でしたので、最初対馬の猛暑にいささかまいってしまった様子でしたが、着いてものの1、2時間も経てば、海水浴場に行きたいだの、いいところを紹介してくださいだの、対馬に興味津々でした。来島数回目となるナムサンノリマダンはもう地元に戻って来たかのように、いなくなったと思ったら日暮れになって、「海水浴場まで歩いて行ってきた」と焼けた顔。砂利の海岸に滑って怪我までしたその顔に、私の顔は真っ青でしたが、まるで平気顔で「海がきれいだったね」と微笑んでいました。対馬が大好きなナムサンノリマダンです。

7日、午後になってスタートした朝鮮通信使行列再現は「チッ」舞踊団から対馬藩主、雨森芳洲、正使、副使、そして子供参加者、女性のチマチョゴリ列まで総勢500名にのぼる大行列でした。

進行の時、沿道の皆さんの応援と拍手、そして狭い路地を通った時の2階の住宅から降ってきた花吹雪、本当に心から歓迎、応援してくださっていることが皆に伝わり、行列の参加者全てが暑さも忘れて喜んでおりました。340年前もこのように韓国から来た通信使が歓迎されていたのだと思い巡らすと胸がいっぱいになってきます。

そしてその夜、舞台で両舞踊団の公演も披露され、久しぶりに見る扇子踊りは多くの観客を魅了しました。公演の間のずっと絶えない拍手と笑顔に舞踊団の皆も感動したそうです。

今年の花火は例年よりすごかったですね。日曜日の会場の人並みにはいつもびっくりさせられますが、今年もどこにいたのかと思うほどの大勢の観客に押されながら、花火が見たいがために舞台の裏に忍び込み、花火を間近に眺めながら祭の終了を惜しみました。

一年に一度しか会えないスタッフと島民の皆さんの、今年も変わらぬ高い水準を保ち続けるその底力にあらためて心強さを感じました。今年、挑戦！通信使、を演じた皆様、初めての方も何回目かの方も、参列大変お疲れ様でした。

また来年もお会いできることを楽しみにしております。



子どもたちもチョゴリを着て行列参加

対馬釜山事務所 キム 金 キョンイル 京一、シン 辛 ウンギョン 恩京